



夏の小児感染症に注意！！



～ヘルパンギーナが流行しています！～

○ ヘルパンギーナとはどのような病気ですか？

感染して2～4日してから、突然の発熱（38～40度）で発症し、口の中や喉の奥に水疱（水ぶくれのような発疹）ができ、喉が痛む病気です。発熱が1～3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを起こすこともあります。ほとんどは数日で回復しますが、まれに重症化（髄膜炎、心筋炎など）することもあります。

病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルスで、1～4歳くらいまでの乳幼児がかかりやすい病気です。

○ ヘルパンギーナにかかったら？

特別な治療法はなく、症状を楽にする方法（対症療法）が行われます。口の中に水疱ができるため、食事や水分がとりにくくなり、脱水症状を起こすことがあります。柔らかく刺激の少ないものを摂取しましょう。

○ 感染経路は？

咳やくしゃみなどによる飛沫感染や、患者の手についたウイルスが飲食物を介して経口感染します。

感染予防のポイント

- ★ 帰宅したとき、トイレの後、調理や食事の前の手洗いを徹底しましょう。
- ★ 症状がなくなっても、しばらくは便の中にウイルスが排出されるので、処理をする時は使い捨て手袋やマスクを着用し、終わった後は手を洗いましょう。



©fumira